

の様に申されますが、一度觀察を家庭の内部に注いで其親子兄弟の關係が如何に殺風景であるか冷かであるかを御覽になると實際多くの養老院の必要なく到底我國などの比でないことが御別りになりませう、西洋人は全然個人主義で恩愛相酬ひ禍福相補ふと云ふ様なことは親子兄弟の間にも少ないので年をとつても構つて呉れる人がなく止むを得ず、餘生をわぢ氣なく送ると云ふ仕末であります、之を我國の老人が子や孫の温き情に保護されて幸ある餘生を樂んで居るのに比べると實に天壤の差であります、然るに此美風を捨て、唯青春一時の快樂に酔ふて妄りに泰西の個人主義を眞似様とする人の氣が知れませんが、無論私も我國の此制度を以て完全無缺のものとは思ひませぬ大に改良する必要は感じて居りますが、然りとて妄りに老人を排すると云ふのは如何でせうか考へるものです。

それでは現在の所何うしたら兎に角最も都合よく

行くかと云へば私の考では矢張り姑は嫁に一步を譲り嫁は姑に一目を置いて掛ると云ふ相方に義理人情を楯にして御互に衝突を避け平和を計ると云ふのが最も安全で且効果の多いものではないかと思ひます。

將來の家事教科

若林 幾造

高等女學校の家政科なるものが女學教科として教育社界に重視せられて居ることは兼々承知して居ることであるが併し其内容が果して此重望に添ひつゝあるや否やと云ふことは蓋し刻下の一問題ではあるまいか。

吾人は勿論門外漢であるから此學科が如何なる内容を有するか如何なる状態に教授されて居るか、固より關知する處でない、併し所謂家事教科書なるものを見ると其が多くは机上の空論を書いたものでなければ徒らに清潔にす可し、入るを計り

て出るを制す可して、抽象的軌範を示すに止まり、如何なる手順に如何なる方法を用ゆる時、最も清潔に掃除し得るか、入るを計りて出づるを制せんと欲せば如何なる心掛を以て如何なる費目より如何に制して行く可きかは未だ嘗て教へてない様だ。家事經濟の練習をすると云へば何時も必ず一定の費目と一定の収入とによりて形式的練習をするに過ぎない様である。二私の學校では月收はいつも百圓よ」とか「私の學校は二百圓よ」とか話しつゝ行く女學生は能くある様である。こんな事で家事經濟の研究と云へるだらうか。甚だしいのになると何々法學士著家事經濟など、エライ肩書の付いたのを開けて見ると普通經濟學を縮めたばかりで富の定義は何々、價の原因何々と愚にもつかぬ學者の寢言を書いたのもある、こんな家事經濟書を一冊や二冊讀んだ位で何で家事の經濟が出来様か、又育児書はと見ると牛乳は何倍に薄めよとか、口は硼酸水にて拭へとか云ふことはわ

るが之を實際に行ふには如何なる器に如何にして行ふが最も都合よきかと云ふ實際の方法になると頓と教へてはない、まるで師範學校の生徒に教育學を教へて實地授業の練習をさせないと同じことである、轉じて世人の最も重視して居る裁縫科に就て見ても然りである。學校で教へる裁縫は只新らしきものを縫ふ許りで古いものゝ利用法を補綴法になると頓と構はない（此頃少し注意して居る所もあるが）其癖世人は學校出の裁縫が一向活用せぬとて随分攻撃しないでもないが此處に充分の注意を拂つて研究して居る家事家の先生があるだらうか、怪しいものである。殊に衣類の洗濯及整理法になると随分研究の余地もあり、應用の路も廣のに未だ嘗て其方法は教へられたことがない、伸子を張るのは、染物屋の事、着物の畳み様は母様に教はれと云ふ丈で能事了れりとして居る、殊に馬鹿らしいのは女學校の料理法である。醬油何勺、砂糖何勺、鹽何程、適宜に味付けて云々と筆

記する丈が精々で生徒は只之を暗記するに止まる
 會々割烹室の設備のある所で僅に數人前の料理を
 數十人掛りで子供のまゝと然といぢくり回すに
 過ぎない。

實に馬鹿らしいにも程のあるものだ。

斯る家事科の授業を受けたものが學校を出て直に
 實地にわたらうとするのだから失敗や遣り損ひば
 かりして居て何の役にも立たないので女學生攻撃
 の鋒先を強める、よい材料にされるばかりであ
 る。そこで

將來此教科をして益有用のものとならせ、適切な
 ものとならせ様とするならば刻下に於て是が内容
 の研究を盛んにし實地に直に應用の出来る様な適
 切な方法を實驗的練習的に遣らせる様に工夫しな
 ければ駄目である。

我輩が嘗て某地方女學校の割烹教室を參觀した事
 があるが愈行つて見た迄は嘸かし整頓し清潔にな
 つて居て定めし小氣味よき程に出来て居ることだ

らう、そして出来るなら我々の家庭にも眞似をし
 たい位に思ふ程なものであらうと思つて行つた所
 が豈計らんや、豫想も何もあつたものではなくて
 亂雜、不潔、一見して此様な臺所は九尺二間の長
 屋連中にも眞似が出来、否彼等長屋住居のもの
 間に合せ臺所の方が餘程よく整頓して居る様に
 思はれた。一を以て他を押すことは出来まいか、
 若し是れが全國の女學校の多くの状態だとすると
 頗る慨嘆に堪へぬ次第である。

我國の家庭制度及び其生活の状態は世界に於て尤
 も理想に近いと云はれて居り女學校に家事教科の
 重視されて居ることも我國の一特徴である以上は
 今少し有力な、そして適切なものたらしめなけれ
 ばならぬ。殊に今後の女子は學校生活をする時間
 が漸次増加するとも耗ることのないものであるか
 ら、せめて學校でなりとも今少し實地的練習の出
 来る様な仕組にしてほしいものである。